

(1)学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
組織力の向上	<p>○教職員が能力を最大限に発揮できる職場環境をつくる。</p> <p>(1) 各分掌(事務を含む)学年、教科等が互いの連携・協力を意識し、日常的に分掌を越えて情報交換を行う。問題が起こった時は協力しあい、組織的な対応をする。</p> <p>(2) できている時とそうでない時がある。</p>	<p>・日常的な情報交換は行っているが、分掌を越えて話し合う機会はあまり持っていない。意識に個人差がある。大人しい生徒に関する情報交換はできていない。問題に対しては、ある程度協力し合いながら対応している。</p>	<p>(1) 意識的に情報交換する姿がよく見られるようになった。</p> <p>(2) マニュアルのようなものを作成し、良い事例を広め、全体のものにしていく。</p> <p>(3) 内規集、危機管理マニュアル等の整備と見直しを来年度行う。</p>
生徒指導	<p>○ルール・マナーを守る生徒を育てるための取組みの一つとして、整理・整頓・清掃を基本とした環境に配慮した学校経営を行う。</p> <p>(1) 掃除担当者と担任との連携を密にし、生徒の掃除参加の徹底を図った。ポイ捨て防止のポスター等広報活動を行い、ゴミの分別を徹底させるようにした。また、夏休み中に、廊下に「ゴミステーション」を設置した。</p> <p>(2) 概ね達成。</p>	<p>・ゴミも私物の散乱も減少傾向にある。ゴミステーションの設置により廊下のゴミがなくなり、分別の状況も良くなった。ロッカーの上に私物を放置する生徒もいるが、全体としては改善されている。</p>	<p>(1) 教職員の意識が高まり、力を入れて取り組むようになった。</p> <p>(2) 教員間格差がなくなるように、掃除に必ず参加させるノウハウを共有する。</p> <p>(3) 当初の計画にはなかったが、「ゴミステーション」の設置が効果を上げた。廊下は改善したが、教室と職員室に課題が残る。</p>
教科指導	<p>○基礎学力を身につけた生徒を育てるための組織的な取組みを23年度に向けて22年度中に決定する。</p> <p>(1) 生徒へのアンケートにより定期的にニーズを把握し、学力への関心が高まっていることを教職員が理解し、教育課程委員会を中心に基礎学力に関する組織的取組みを考え教科に提案したがまとまらず。</p> <p>(2) 達成されず。</p>	<p>・近年、ニーズの1位が「分かりやすい授業」であることから、各教科レベルでの取組みを教職員が意識し始めた段階であり、まだ学校全体での改善活動には至っていない。来年度も継続して具体的な取組みを考え、実行していく必要がある。</p>	<p>(1) 教職員の意識が高まり、教科ごとにできる範囲で工夫した授業を行うようになった。</p> <p>(2) 新しい取組みを始めた教科の良い事例をもとに授業研究等の研修を行い他教科にも広めていく。</p> <p>(3) やっと、学力をテーマに話し合いが持てる状況になったばかりである。来年度も継続して具体的な取組みを考え、実行していく必要がある。</p>

(2)組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強 み	<ul style="list-style-type: none">① 学校の目指す方向が教職員に定着し始め、それを意識した指導を心がけるようになってきている。② 職員間の対話・情報交換が自然に生まれる雰囲気がある。③ 地域開放講座やクリーン作戦といった地域と連携した行事を継続的に行っている。④ 日常の清掃指導に全職員が力を入れて取り組むようになり、教職員の意識が変わってきている。⑤ 学習者のニーズを把握し、学校として対応、行動しようとしている。⑥ 課題に対して、協力・連携して取り組めるようになってきている。⑦ HPの更新をできるだけ多く行い、情報発信をしている。
弱 み	<ul style="list-style-type: none">① PDCAサイクルのAが弱い。具体的な改善の取組みが（提案はあったが）決まらなかった。② 生徒のマナーに対する地域住民の方からの苦情がまだ多い。保護者や地域に情報がいきわたらないことや勘違いされていることがまだある。③ 学校全体としてはゴミも減少傾向ではあるが、（間取りの問題もあるが）土足と上履きの区別があいまいだと感じる。職員室内が汚い。④ アンケートで学習者のニーズを把握しているが、分析が甘い。ニーズの内容が対応しがたいものもある。⑤ 「学校経営の改革方針」を個人レベルまで落とし込んでいない教職員は少ない。⑥ （生徒の問題行動への対応など）突発的な業務がまだ多く、教職員同士の授業研究をはじめとしたOJT研修など組織・個人の資質・能力の向上のための時間が取れていない。 <p>問題行動に関わる生徒の情報交換はされていても、大人しい生徒については希薄になってしまっている。</p> <ul style="list-style-type: none">⑦ 体育科が弱い。入試倍率が低く、再募集となってしまった。

(3)組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組
<ul style="list-style-type: none">・23年度への準備として、「生徒手帳」を「学校生活ルールブック」と改め、全学年に配布し直すことを計画している。引き続き「生徒指導」を組織的に取り組む。・体育科の強みと弱みを検証し、魅力化を図る必要がある。（入試方法、部活動の活性化、中学校訪問（アピール）、カリキュラム等）・学習者のニーズの1位は「分かりやすい授業」であり、2位は「進路実現」である。22年度は、教育課程委員会を中心に話し合いを持ったが、具体的な取組み方法は決定しなかった。取組み方は各教科に任せてあり、それぞれに工夫しているのが現状である。23年度も継続して議論していく必要がある。・「学校経営の改革方針」の内容説明を理念も含めじっくりと行う。・多忙な中でも、オフサイトミーティングやベンチマーキング、OJT研修等を少なくとも年に1回は行い、人材育成・組織力の向上に努める。・「美しい学校」を目指し、職員室など細部にわたって整理整頓・清掃の意識を高めていく。